名　前	米盛　徳市	所　属	（学部・研究科等）	教育実践総合センター	職　名	教授

領域	業務ウェイト比		年度末自己点検結果
教育	0.40	①コンピュータ室が新たな学内情報システムになったことや授業で使うソフトウェアのバージョンアップが大幅に変化に対応し、特に共通科目や専門科目教育について将来を展望した教育方法を模索しながら授業を行っていく。 ②大学院の授業と修士論文の指導を行う。	①コンピュータ室のバージョンアップに学生自身が慣れてきたこともあってスムーズに運営できた。共通科目は従来通りに行えた。専門科目では電子黒板の利用について授業が展開できた。今後はタブレットを導入し新たな教授法を見出したい。②ネットワークを活用した修論指導に役立てた。
研究	0.20	①実践センターのマルチメディア機器をおおいに活用し学内外の情報教育の連携・遠隔教育の研究開発を図る。 ②電子黒板を用いた教材開発を行う。③ネット上の有害サイトから子ども達を守るための「闇ネット監視サイト」を構築し、青少年の「情報モラル教育」のあり方を研究する。	①青森県の小学校と沖縄県の小学校を遠隔で結び交流学習が実現できた。2月の下旬には青森県に出向き弘前大学教育学部教育力向上フォーラムに参加。②電子黒板の利用についてビデオ教材を作成できた。③附属小学校、中学校、県内の沖縄尚学附属中学校で「携帯の情報モラル」の講演を行った。
社会貢献	0.15	①沖縄県マルチメディア教育研究会の顧問、・沖縄ITマスターズクラブの会長、・日本科学教育学会の九州・沖縄副支部長として沖縄での大会を主催、また全日本教育工学会の理事を担当する。 ②沖縄県浦添市立教育研究所運営委員会の運営委員長、縄県宜野湾市立長田小学校学校評議委員、・その他、沖縄キリスト教学院大学、長崎大学教育学部の非常勤講師を行う。	①沖縄県マルチメディア教育研究会の顧問、・沖縄ITマスターズクラブの会長、・日本科学教育学会の九州・沖縄副支部長、また全日本教育工学会の理事を担当した。②沖縄県浦添市立教育研究所運営委員会の運営委員長、縄県宜野湾市立長田小学校学校評議委員、・その他、沖縄キリスト教学院大学の非常勤講師を行った。
管理運営	0.20	①教育実践総合センターの「情報教育研究部門」の担当 ②「教職体験Ⅱ」の学校訪問・指導助言 ③附属小中学校における情報教育開発	①教育実践総合センターの「情報教育研究部門」の担当②「教職体験Ⅱ」の学校訪問・指導助言を行った。③附属小中学校における情報教育開発はできなかった。離島の八重山島の八島小学校での電子黒板の講習会を行った。
進路指導	0.05	①「情報教育コース」の米盛セミナーに参加している2人(1人は3年次、一人は4年次)の学生の進路指導を行う。	①「情報教育コース」の米盛セミナーに参加している2人(1人は3年次、一人は4年次)の学生の進路指導を行った。
	0.00		・・・
計	1.00	備　考	

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	喜屋武　勝	所　属	教育学部　附属教育実践総合センター	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.50	・教員養成機関として4年間の長期計画に即し、担当科目の内容の充実、改善に取り組む。 ・教育実習の事前指導、事後指導である「学校教育実践研究Ⅰ」、「学校教育実践研究Ⅱ」の充実に努めるとともに、系統性をもたせる。	0.60	(1)教職科目「教職研究」の内容の充実に努めた（前期89名、後期53名受講） (2)非常勤講師(6名)・時間講師(7名)をコーディネートしながら下記科目の充実に努めた ①「学校教育実践研究Ⅰ」(201名受講)「学校教育実践研究Ⅱ」(183名受講)については系統性を持たせ、模擬授業を中心にしながら教育実習の事前指導に努めた。 ②「教職指導」(381名受講)は夏期集中講義として学校現場への職場体験を課し、教職についての適性を考える事のできる講義となるように努めた。 (3)「教職体験Ⅱ」への業務へ協力
研究	0.20	・本学における教員養成（教育実習）の課題を明確にし、改善策を講じ、業務へ活かす。 ・他大学の情報収集を行い、本学の実践センターの企画・運営に資する。	0.10	(1)教職セミナーや講演会、研究会等に参加し、教員養成のあり方を考え、業務へ活かすことに努めた (2)学校訪問等をとおして得た本学学生の評価を、教員養成の改善に活かした
社会貢献	0.10	・教員免許更新講習の必修領域である「教育の最新事情」を担当する。講習を円滑に行うと同時に質の保証に努める。	0.10	(1)免許更新講習の必修領域の一領域である「教育政策の動向についての理解」を担当し、講義を円滑に行い質の保証に努めた（2クラス計85名を担当）。 (2)県立学校10年経験者研修において「高校教育に求められるもの～学習指導要領の改訂とキャリア教育の視点から～」として講義を担当（県立高等学校教員128名受講）
管理運営	0.10	・教員養成運営協議会、運営委員会において実践センターの立場から協議会、運営委員会の協議・運営に資する。	0.10	(1)全学の学生を対象に教員養成を預かっている立場から、教員養成運営協議会、運営委員会において会の協議･運営に協力した。 (2)学生部教務課からの依頼で、全学に係る「教職実践演習」の実施について県教委や県立学校校長協会との調整に尽力した。
進路指導	0.10	・「学校教育実践研究」との関連から学生に対して積極的に指導助言を行い、特に模擬授業や面接指導等の教員養成対策の充実に資する。	0.10	(1)学生生活委員会就職推進部会教員採用試験対策セミナーWGにおいて委員外のWG委員として協力し、前期、後期とも2次対策講座を担当（模擬授業指導、面接指導、県の採用試験の動向説明）した。また個人でも面接試験対策にあたった。 (2)「学校教育実践研究ⅠおよびⅡ」において非常勤講師と連携ながら適宜、教職に就く事への相談･助言に努めた。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	玉城　きみ子	所　属	教育学部附属教育実践総合センター	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0、40	・教育学部の教育目標に即し、学生が課題を発見し、解決策を考え実行できるように対話活動等を取入れ、授業改善を図る。教育原理において、理論と実践を結びつけ、学び合い・磨き合い重視の授業を行う。 ・教職体験Ⅱ・教育実践研究・教育実習の充実のため、教育補助者を有効活用すると共に学生のニーズに応じ補講の場を設定する。	0.40	・教育原理や模擬授業において、学生が自ら課題を発見し、その課題の解決策に向けての対話活動を重視した授業づくりを行うことで、理論と実践を結びつけた学び合い、磨き合いが出来た。学生の学習メモにも「仲間同士の学び合いが有意義だった」と記載されていた。 ・教職体験Ⅱ、教育実践研究・教育実習において、学生のニーズにその都度対応をするように心がけてきた。どの学生も真摯に取り組み、体験や実習で充実した学びが見られた。
研究	0、20	・附属小学校の国語部や公立学校との連携による共同研究を行い、国語科における「活用する授業づくり」の実践研究に取り組む。 ・教員をめざす学生の資質向上のために大学と附属学校との連携の強化を図り、効果的な教育実習の確立に向けた研究を行う。	0.20	・附属小学校の国語部とは、伝統的言語文化における教材を中心に取り組み、公立学校の津覇小や開南小等とは、読む活動から論理的な文章を書く活動へ繋げるための「活用する授業づくり」に取り組んできた。その取組みを教育実践センターの紀要20号に掲載している。 ・附属学校の実習主任をはじめ多くの教師との連携が強化され、教育実習が効果的に行われた。学生の資質向上に向けた取組の成果と課題を次年度に生かすためにまとめている。
社会貢献	0、20	・公立学校との連携の下、教員養成・教員研修・校内研修の支援を行う。 ・公立の教員の「認定講習」の講師として、講習をスムーズに行うと同時に内容の充実に努める。	0.20	・公立学校との連携に向けて、那覇地区：9回、中城村：16回、金武町：5回、西原町：2回、計32回、教育センターの講話等公立学校の校内研修、教員養成・教員研修に関わることができ、多くの学びを得ることができた。 ・認定講習の講師として計8コマの講習を行った。その時に関わった教師が研究室を訪れ、学び合う仲間になっている。
管理運営	0、10	・教育実習委員会小学校部会長として円滑に執り行うと共に教員養成運営協議会においても協議・運営に積極的に参加する。 ・学内の認定試験（国語科）では教員採用試験対策に適切な作問を行う ・教職体験Ⅱでは、公立学校との連携強化を図り、円滑で有効な学びのある体験活動の実施に努める。	0.10	・教育実習委員会小学校部会長や教員養成委員として、教育実習委員会や教員養成運営協議会等に積極的に参加してきた。 ・学内の認定試験（国語科）では、年2回、教員採用試験の作問を行い、採点、解説まで行ってきた。 ・教職体験Ⅱでは、公立学校との連携がスムーズに行われ、学びの多い体験活動となった。
進路指導	0、10	・教員採用試験2次対策で模擬授業や面接指導等の講師を務める。	0.10	・教員採用試験2次対策で模擬授業や面接指導の講師を務めることができた。
	0.00		0.00	
計	0.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。